

2012 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	総合政策学部	身分	教授
氏名	小林 勉		
NAME	Kobayashi Tsutomu		

1. 研究課題

(和文) 国際サッカー連盟 (FIFA) が推進する「サッカーを通じた地域開発」プログラムに関する実態調査

(英文) An Exploratory Investigation of FIFA Social Development Program

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

(和文)

近年、国連をはじめとする各国際機関でスポーツを貧困削減に向けた、いわゆる「開発」のプロセスの中で活用していこうとする「開発を後押しするためのスポーツ：Sport for Development and Peace（以下SDPと表記）」の潮流が台頭してきた。ただ、日本での援助や国際開発の議論に目を向けると、SDPへの活動や議論への関心が世界で高まりをみせているのとは対照的に、スポーツがその領域にいかなる接点を持ちえてきたのかということが十分に議論されることは少なかった。本研究では、日本でこれまで大きく見過ごされてきたそうしたSDPの展開に着目しながら、とりわけFIFA（国際サッカー連盟）が展開する「サッカーを通じた地域開発プログラム」を焦点化しつつ、その実施状況と援助インパクトについて検証した。FIFAの「サッカー版ODA」ともいえるGoalプログラムのオセアニア地域への具体的展開を跡付けながら、いかなる経路でディベロップメント・プランが導入され、どのようなフィロソフィやメソドロジーのもとで実際のプログラムが運営されているのか等について明らかにすることができた。これらの研究成果については、学術誌「スポーツ社会学研究」に原著論文として既に掲載されているほか、研究報告として紀要への掲載も決定している。また、今後も関連の学術雑誌に投稿予定であり、日本における当該領域の研究に対して、大きな基礎データを提供しうる成果を上げることができた。

(英文)

Despite the recognition of the role of football as a potential engine of development, there are some significant problems in any argument that considers football a priori to be a force for human well-being. This research aims to further this debate by examining the nature of FIFA presumed contribution, particularly the new ambition of “social development through football” in current social context.

4. おもな発表論文等（予定を含む）

<p>【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）</p> <p>小林勉、国際開発とスポーツ援助：スポーツ援助の動向と課題、スポーツ社会学研究、査読有、第22巻第1号、pp.61-78、2014年3月3日</p>
<p>小林勉ほか、国際貢献に傾くスポーツの世界的潮流：国連による「スポーツ・体育の国際年」の展開とその成果、中央大学保健体育研究所紀要、ページ数未定、2014年4月公刊予定</p>
<p>【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）</p>
<p>【図 書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）</p>
<p>【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）</p>